

大学では主体的な学びが求められると言われます。実際、科目選択からスケジュール管理、レポートの考察やディスカッションへの参加など、自分の意思、自分の考えで行動しなければならないシーンは多くなります。しかし、日本社会全体としては、それほど主体性など求められていないようでもあります。みなさんは、なかなか葛藤的な課題に直面しているわけです。

急に主体性と言われても

大学における学びは、高校までとは違って主体性が求められると、いろいろな機会に言われることでしょう。なぜわざわざそんなこと言うのかといえば、高校までは主体性を育てる教育などしていないからです。

少し振り返ればわかるでしょうが、小・中・高では、先生の指示に従い、授業で習った通りの答えを書き、学校の校則の範囲内で「健全な」学校生活(あるいは私生活までも!)を送ることが奨励されているわけです。

よほど頭脳明晰な子でなければ、先生と対等に議論しながら、なおかつ優等生で居続けることは困難です。多くの場合、「主体」など消して「いい子」になった方がいいと学んでいくのです。

大学生になって急に自分の意思を持つと言われても、どうしていいかわからないのは自然なことでしょう。



社会に出ればまた・・

しかも、せっかく大学で多少、主体性を経験できたとしても、社会に出ればまた、上司の指示や会社の前例に従う「いい子」であることを求められたりするわけです。結局、日本社会で求められる「主体」など、「輪を乱さない範囲で」という暗黙のお約束の域を出ないのです。

主体性って難しいと感じるとき、こういう現実横目で見据えておきたいものです。社会や教育の影響が大きいということですね。それに、主体的になれないからといって、それほど詰んでしまう社会でもないのです。主体って何?と思ったら、学生相談室でも相談に乗ります。

